

伊藤ひろし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

6月県議会一般質問

花見川第二終末処理場と磯辺幹線

確実な耐震化を

習志野市選出の伊藤寛県議は、誰もが住みやすいと思えるふるさとづくりに力を注いでいます。6月定例県議会で一般質問に臨み、下水道の耐震化や河川の防災対策、県立高校の長寿命化や道路問題など、多項目にわたって県民・市民の立場から県執行部の考え方をたずねました。その概要をお伝えします。

伊藤議員 下水道について、終末処理場の耐震化を伺う。習志野市の一部の地域は、市が管理する公共下水道の管渠から、県で管理する流域下水道の管渠を通



6月県議会一般質問に登壇した伊藤議員

じ、自然流下しながら東京湾沿いに位置する、花見川第二終末処理場にて汚水が処理されている。習志野市と千葉市に跨るこの第二終末処理場は、印

旛沼流域13市町の汚水を広域的に集める処理場であり、平成6年6月に供用を開始。一日平均約17立方メートルの汚水処理し、生活環境の改善や東京湾の水質保全に大きな効果を発揮している。

私は、下水道は、汚水の排除・処理による公衆衛生

の確保、公共用水域の保全等

住民のくらし、安全及び環境を守ることも都市活動を支えるための根幹的の社会基盤であり、日常生活における最も基本的な事項を担い、都市機能を支える重要なインフラであると認識している。このことから、地震発生時においても、処理場の有すべき機能を維持しなくてはならないものだと考えている。

また、災害時に第二終末処理場から花見川終末処理場に汚水を送水でき、処理場のネットワークを構成する緊急連絡幹線ともなる重要な磯辺幹線は、令和2年3月から耐震補強工事に着手している」と聞く。

私は以前、予算委員会などで「下水道総合地震対策計画」の進捗状況を取り上

河川監視カメラを41基設置しました。

さらに、令和4年3月に指定・公表した新たな洪水浸水想定区域図を踏まえ、人口密集地で床上浸水の想定される箇所についても、今年度は危機管理型水位計を22基、河川監視カメラを12基設置する予定です。

伊藤議員 習志野市内の国道14号線から海側の地域は埋め立て地で、地盤が低く、この地域には、菊田川、高瀬川という3本の小規模な河川が流れている。

これらの河川は千葉県により洪水浸水想定区域が示され、近隣の住民は常に河川の水位や葛南港の潮位に

注意を払う必要があるが、潮位は確認できるものの、河川の水位は現在確認する手段はないと認識している。そこで伺う。習志野市内の3河川への危機管理型水位計や河川監視カメラの設置状況はどうか。

県土整備部長 菊田川、谷津川、高瀬川のいわゆる習志野3河川のうち、菊田川においては、想定最大規模の降雨で住宅街の浸水深さが50センチメートル以上想定されることから、今年度、危機管理型水位計を1基設置する予定です。

なお、谷津川、高瀬川については、河川延長が短く流域面積が小さいことや、

施工方法を検討していること。また、磯辺幹線については、浜田川と花見川を横断する2つの水管橋の補強工事が必要であり、このうち浜田川水管橋については、来年度の完成を目指し工事を行うております。残る花見川水管橋についても、順次耐震化を進めてまいります。伊藤議員 補強工事を実施するための課題は何か。

都市整備局長 工事の実施にあたりましては、汚水処理を継続しながらの施工となるため、仮設の配管や代替施設が必要となるなどの課題がございますが、最適な工法を選択し、耐震化を進めてまいりたいと思っております。

花見川第二終末処理場とネットワーク

河川の水位が潮位の影響を強く受けることを踏まえ、潮位計の情報をもとに、現地パトロール等の水防活動を行っているところ。谷津川と高瀬川に

おいても、洪水氾濫想定区域が広範囲となっている。住民への避難誘導の判断目安となる水位計や監視カメラの設置など、防災情報の充実に向けて早期に取り組んでいただくよう要望する。

伊藤ひろし県議プロフィール

略歴

1975年 富山県に生まれる

1994年 東海大学付属望洋高校卒業

1998年 東海大学政治経済学部卒業

薬品販売業に従事

2004年 松下政経塾の地域政経塾卒業

2007年 習志野市議会議員当選(3期)

2019年 千葉県議会議員当選(2期)

現職

県議会 総務防災常任委員会副委員長

資格

中学・高校教員免許、防災士

伊藤ひろし 県事務所

〒275-0021 習志野市袖ヶ浦2-4-1-102 TEL.047(454)8358

県政や習志野市のまちづくりに関するご相談はお気軽にどうぞ

ク構成する磯辺幹線の約50mの浜田川水管橋について、早急かつ確実に耐震化を進めることを要望させていただきます。

伊藤ひろし 県事務所

〒275-0021 習志野市袖ヶ浦2-4-1-102 TEL.047(454)8358

県政や習志野市のまちづくりに関するご相談はお気軽にどうぞ

伊藤ひろし 県事務所

〒275-0021 習志野市袖ヶ浦2-4-1-102 TEL.047(454)8358

県立高校の長寿命化計画

伊藤議員「千葉県県有建物長寿命化計画」は平成29年に策定され、大規模改修や定期的な点検・診断に基づく計画保全を推進すると示されている。建物物のうち県立高校が、1、16棟となっており、対象建築物の約60%を占め、県有施設に対して県立高校の占める割合が大変大きい状況にある。

対策に取り組むこととされている。

また、計画の対象となる建物は、令和3年3月末現在、1、871棟。対象建築物のうち県立高校が、1、121校もあり生徒の安全な教育環境に向けて計画的に整備が進んでいるか、また、どのような整備が行われるか、大変気になるところである。

具体的な整備内容は、床壁、天井などの補修及びび更新、外壁や屋上防水などの全面改修、さらにはエレベーター設置や照明のLED化などを実施してまいります。

引き続き、長寿命化対策を着実に実施することで、教育環境の改善に努めてまいります。

伊藤議員 県立高校の多くは、各自治体の地域防災計画において、災害が発生した場合の指定避難所として位置づけられている。

私の地元、習志野市には、津田沼高校と実科高校の2校の県立学校があり、両校とも、市の指定避難所の役割を担い、住民にとっては、この2校の体育館は、市民

手が付けられていない区間についても改善要望をさせていただいたが、その後の取組状況が大変気になるところである。

伊藤議員 当該区間においては、歩行空間が狭いなど、整備が十分でないため、自動車交通量の多い中を、児童・生徒が危険にさらされながら利用している状況にある。

このような中で、平成30年度から、この長寿命化計画が始まり、現在で5年が経過した。

なかでも、県立高校は、121校もあり生徒の安全な教育環境に向けて計画的に整備が進んでいるか、また、どのような整備が行われるか、大変気になるところである。

そこで何う。県立高校の長寿命化の取組状況はどうか。

教育長 県立高校については、千葉県県有建物長寿命化計画に基づき、これまで、第一期に位置付けた16校の改修に着手しており、本年度からの第二期で25校、令和10年度からの第三期で25校を整備することとして

います。

具体的な整備内容は、床壁、天井などの補修及びび更新、外壁や屋上防水などの全面改修、さらにはエレベーター設置や照明のLED化などを実施してまいります。

伊藤議員 津田沼高校の規模改修は、長寿命化計画第二期に位置付けており、本年度から着手し令和11年度までの7年間で、校舎3棟と体育館などを改修することとしています。

本年度は、アスベスト含有調査やコンクリート強度調査を実施するとともに、トイレの洋式化をはじめとする工事内容や工事計画などを検討し、基本設計を進めてまいります。

今後、生徒の安全や教育活動に配慮しながら、計画的に整備を行ってまいります。



自席から要望する伊藤議員

歩行者の安全対策

伊藤議員 県道長沼船橋線「御成街道」は、千葉市から船橋市に至る路線であり、習志野市の北部を東西に横断している。本路線の自動車の通行は、1日約13,000台、その内大型車は約1,800台を占める幹線道路である。このうち、習志野市区間の沿

線では、複数の小中学校があり、通学路として指定されている区間もあることから、朝夕を中心として児童・生徒の通行が大変多くなる。

この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

き、この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

き、この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

き、この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

き、この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

き、この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

き、この安全対策の推進について定例議会において何度か取り上げ、船橋市寄りにある藤崎小学校付近でまだ

さらされながら利用している状況にある。

また、歩道や路肩などの歩行空間の段差を解消し、歩きやすくするための安全対策に取り組んでいると聞

が一定期間避難生活をする

ことが想定される重要な施設となる。

こうした場合、習志野市内の県立高校2校のうち、建築後の経過年数がより長い津田沼高校は、大規模改修の対象校となっており、その取組状況が大変気になるところである。

そこで何う。指定避難所になっている津田沼高校に係る長寿命化の取組はどうか。

伊藤議員 津田沼高校の大規模改修は、長寿命化計画第二期に位置付けており、本年度から着手し令和11年度までの7年間で、校舎3棟と体育館などを改修することとしています。

若年層に献血推進を

伊藤議員 献血の推進は、国、都道府県、市町村、日本赤十字社を始めとする多くの関係者により進められ、献血に協力していただく方やボランティアなど多くの方々のご協力により成り立っている。

この善意の献血により造られた血液製剤で、多くの患者さんが救われたと聞いているが、輸血用の血液は未だ人工的に造ることができず、長期間保存することができない。そのため、血液製剤を確実に供給するためには、毎日、新しい血液を必要量、確保する必要があります。多くの皆様の献血への協力が必要となる。

令和元年度の日本赤十字社の血液需要将来推計シミュレーションでは、令和9年度には、約507万の献血者が必要になると試算されている。一方、厚生労働省の調査では、この10年の間に、10代から30代の献血者数は、約34%・90万人の減少状況が報告されている。

このような中、全国的な行事である「献血運動推進全国大会」が来月、第59回大会を、千葉県が開催となり、本県での「献血運動

津田沼高校の体育館は、災害時には市民が避難生活を送る場所となるので、大規模改修において早期の対応を要望する。

千葉県での全国大会開催の効果を一過性で終わらせるのではなく、若年層へ働きかけ、新たな献血経験者の確保の強化に取り組んでほしい。

千葉県での全国大会開催の効果を一過性で終わらせるのではなく、若年層へ働きかけ、新たな献血経験者の確保の強化に取り組んでほしい。